

令和7年(2025年)度年間授業計画表					
学年	2 年	学科	全学科	必選	必履修
教科	国語	科目	言語文化	単位	2 単位
使用教材	大修館書店 新編言語文化				
学習目標	① 国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高める。 ② 思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。 ③ 言葉の持つ歴史的価値への認識を深めるとともに、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、生涯にわたり国語を尊重してその能力向上を図る態度を養う。				
単元と内容					
1 学 期	①ナイン(プリント学習) ②遅筆堂見学／新聞作成学習 ③詩歌の調べ(短歌学習)	登場人物の描写から人物像をとらえ、場面ごとの心情を読み取る。			
		郷土の作家について学び、復元書斎を実際に見学し、地域とのつながりやその時代性を主体的にまとめる。			
		古典の言葉と現代の言葉のつながりについて理解する。			
2 学 期	④ホッチキスストーリー ⑤古文への招待 いろは歌 児のそら寝 ⑥祖母が笑うということ ⑦訓読のきまり／格言／再読文字／守株 ⑧詩歌の調べ(俳句学習)	身のまわりの例を探しながら、日本文化の特色について理解を深める。			
		漢語・漢文と我が国の言語文化の関係について理解を深める。			
		叙述をもとに、場面の様子や人物の心情を想像しながら読む。			
		受け継がれてきた古文を音読し、響きやリズムを味わう。児と僧たちの行動、心情の移り変わりを読み取る。			
		詩歌の形式や表現の特徴について理解を深める。			
3 学 期	⑪羅生門 ⑫蛇足／学問のすすめ ⑬夢十夜	小説の構成をとらえ、登場人物の心情の変化を読み取る。			
		この話で語られている教訓の意義を理解する。			
		読み取ったことをふまえて、自分の経験を振り返り、考えを深める。			
		作品の状況設定を的確にとらえ、叙述から人物の心情や象徴性を読み取る。			
評 価					
評価の観点		評価の趣旨			
I	知識・技能	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付ける。			
II	思考・判断・表現	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすことができる。他者とののかかわりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。			
III	主体的に学習に取り組む態度	言葉が持つ力への認識を深めることができる。生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させることができる。我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を身に付ける。			
評価 方法	観点 I		観点 II		年間時数
	1. 定期テスト及び課題テスト ①各定期テスト(年4回) ②基礎学力テスト ③夏課題テスト 2. 発表 3. 授業時のプリント		1. 定期テスト及び課題テスト ①各定期テスト(年4回) ②基礎学力テスト ③夏課題テスト 2. 発表 3. 授業時のプリント 4. レポートや作文の提出		1. 振り返りプリント
					2. 授業時のプリント
					3. 課題の提出
置賜農業育てる能力		①健康 ②自己肯定感 ③忍耐力 ④主体性 ⑤生命 ⑥他者理解 ⑦協調性 ⑧誠実 ⑨生きる力 ⑩知識技能 ⑪地域づくり ⑫実践奉仕 ⑬社会貢献			

令和7年(2025年)度年間授業計画表					
学年	2 年	学科	全学科	必選	必履修
教科	地歴・公民	科目	公共	単位	2 単位
使用教材	実教出版 詳述 公共				
学習目標	①現代社会の諸課題を追求したり解決したりする能力を育成する。 ②広い視野を持ち、グローバル化する国際社会で主体的に生きる力を育成する。 ③平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する				
単元と内容					
1 学期	社会を作る私たち 人間としてよく生きる 民主社会の倫理	世界の様々な宗教や思想などについて学びます。			
		先人たちの様々な考え方を、現代世界の諸事情と 関連付けながら理解していきます。			
2 学期	現代の経済社会と国際政治	現代の市場や企業、国際化について理解する。			
		雇用問題や消費者保護、社会保障の充実、社会 資本の整備などについて考えます。			
3 学期	現代の民主政治と政治参加	基本的人権の保障、生命の尊重、自由と権利、 責任と義務などについて考えます。			
		世論の形成と政治参加の意義について理解して いきます。			
評 価					
評価の観点		評価の趣旨			
I	知識・技能	現代の諸課題を捉え考察し、判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。			
II	思考・判断・表現	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多角的・多面的に考察し公正に判断する力や合意形成することや社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。			
III	主体的に学習に取り組む態度	よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養され、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚を深める。			
評価 方法	観点Ⅰ		観点Ⅱ		年間時数
	ペーパーテスト 授業の振り返り		授業の取り組み 課題解決に向けた発表		予定
					70 時間
					実施
置賜農業 育てる能力		自己肯定感 主体性 生命 他者理解 協調性 生きる力 知識技能 社会貢献			

令和7年(2025年)度年間授業計画表					
学年	2 年	学科	全学科	必選	必履修
教科	数学	科目	数学 I	単位	1 単位
使用教材	教科書: 高校数学 I (実教出版) 副教材: ステップノート数学 I (実教出版)、サブノート数学 I (実教出版)				
学習目標	①数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・原則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 ②命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。 ③数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとする態度や創造性の基礎を養う。				
単元と内容					
1 学 期	4章 集合と論証	(学びの基礎診断)	基礎力診断テスト		
			集合・命題・証明など		
		(期末テスト)			
2 学 期	5章 データの分析	(課題テスト)	数学 I の復習		
			代表値・相関関係など		
		(中間テスト)			
3 学 期					
評 価					
評価の観点		評価の趣旨			
I	知識・技能	○基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ○事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付けている。			
II	思考・判断・表現	○命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を身に付けている。			
III	主体的に学習に取り組む態度	○数学のよさを認識し数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ○問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。			
評価方法	観点 I		観点 II		年間時数
	授業の取組(ノート、プリント) 小テスト、定期テスト(計算)		授業の取組(発表) 定期テスト(記述)		予定
					35時間
					実施
育てる能力		忍耐力 主体性 他者理解 協調性 誠実 生きる力 知識技能 社会貢献			

令和7年(2025年)度年間授業計画表						
学年	2 年	学科	全学科	必選	共通科目	
教科	数学	科目	数学Ⅱ	単位	1 単位	
使用教材	教科書:高校数学Ⅱ(実教出版) 副教材:スタディノート数学Ⅱ(実教出版)、サブノート数学Ⅱ(実教出版)					
学習目標	①いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 ②数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。 ③数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとする態度や創造性の基礎を養う。					
単元と内容						
1 学 期						
2 学 期	1章 複素数と方程式		(中間テスト)			
			式の計算			
			(期末テスト)	複素数と2次方程式		
3 学 期	2章 図形と方程式		点と座標			
			直線の方程式			
			円の方程式			
			(学年末テスト)			
	評 価					
評価の観点		評価の趣旨				
I	知識・技能	○いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ○事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付けている。				
Ⅱ	思考・判断・表現	○数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を身に付けている。				
Ⅲ	主体的に学習に取り組む態度	○数学のよさを認識し数学を活用しようとしたり、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ○問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。				
評価方法	観点Ⅰ		観点Ⅱ		観点Ⅲ	年間時数
	授業の取組(ノート、プリント) 小テスト、定期テスト(計算)		授業の取組(発表) 定期テスト(記述)		授業の取組(発言・態度) 課題の取組(創意工夫)	予定
						35時間
						実施
育てる能力		忍耐力 主体性 他者理解 協調性 誠実 生きる力 知識技能 社会貢献				

令和7年(2025年)度年間授業計画表					
学年	2 年	学科	全学科	必選	選択必修
教科	理科	科目	生物基礎	単位	2 単位
使用教材	教科書：高等学校 新生物基礎(第一学習社) 副教材：新課程版 ネオパルノート生物基礎 (第一学習社)				
学習目標	①日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。 ②観察・実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 ③生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。				
単元と内容					
1 学期	第1章 生物の特徴 第1節 生物の共通性 第2節 生物とエネルギー 第2章 遺伝子とその働き 第1節 遺伝情報とDNA 第2節 遺伝情報とタンパク質の合成		・様々な生物の比較に基づいて、多様な生物の中にもいくつかの共通性が		
			あることをその起源性に着目しながら学習する。		
			・生命活動で必要とされるエネルギー転換を、代謝の概要の中で学ぶ。		
			・実験や資料を通して、遺伝情報を担う物質としてのDNAのはたらきや		
			性質、DNAの情報に基づくタンパク質の合成について学習する。		
2 学期	第3章 ヒトのからだの調節 第1節 からだの調節と情報の伝達 第2節 免疫 第4章 生物の多様性と生態系 第1節 植生と遷移		・実験・観察を通して恒常性のしくみを学習し、体内環境の維持と健康との		
			関わりについて考えを深める。		
			・身近な疾患の例など免疫に関する資料に基づいて、異物を排除する防御		
			機能が備わっていることを理解する。		
			・植生・バイオーム・生態系の多様性について身近な植生の観察などを		
通して学習する。					
3 学期	第2節 生態系とその保全		・生態系の成り立ちを学習し、その保全の重要性について理解を深める。		
評 価					
評価の観点		評価の趣旨			
I	知識・技能	さまざまな自然現象について基礎的な知識を身に付ける。 理科の見方・考え方を習得し、見通しをもった観察や実験方法を身に付ける。			
II	思考・判断・表現	身の回りの事物・現象を地球規模の環境まで視野に入れ、科学的、多面的、総合的に表現できる。 観察・実験より、結果や考察を科学的に相手に伝えることができる。			
III	主体的に学習に取り組む態度	さまざまな自然現象について意欲的に理解しようとし、科学的な見方や考え方ができる。			
評価方法	観点Ⅰ		観点Ⅱ		年間時数
	○定期テスト(年4回) ○小テスト ○授業プリント ○問題演習 ○実験操作 ○レポート		○定期テスト(年4回) ○問題演習 ○レポート ○発表		予定
					70 時間
					実施
置賜農業 育てる能力		①健康 ②自己肯定感 ③忍耐力 ④主体性 ⑤生命 ⑥他者理解 ⑦協調性 ⑧誠実 ⑨生きる力 ⑩知識技能 ⑪地域づくり ⑫実践奉仕 ⑬社会貢献			

令和7年(2025年)度年間授業計画表					
学年	2 年	学科	全学科	必選	必履修
教科	保健体育	科目	体育	単位	2 単位
使用教材	現代高等保健体育(大修館書店)				
学習目標	① 運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。 ② 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。 ③ 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。				
単元と内容					
1 学期	体育理論 体づくり運動 選択Ⅰ(バレーボール・バスケットボール・ダンス)	・スポーツの歴史や意義、価値、影響について学ぶ。			
		・体力や生活に応じて、体の調子を整えるなどの体ほぐしの運動と自分の体力を高める運動を行う。			
		・ボールを用いて、集団的技能や個人的技能を発揮し、練習を工夫し技能向上をする。			
2 学期	選択Ⅰ(バレーボール・バスケットボール・ダンス) 選択Ⅱ(バドミントン・卓球・柔道)	・ボールを用いて、集団的技能や個人的技能を発揮し、練習を工夫し技能向上をする。			
		・集団的技能や個人的技能を発揮し、練習を工夫し技能向上をする。			
3 学期	スキー	・スキーターン等の技能を修得し、斜面や雪の状態に適応できる。			
評 価					
評価の観点		評価の趣旨			
I	知識・技能	各種の運動の特性に応じた技能を身に付け、ルールなどが理解できる。			
Ⅱ	思考・判断・表現	運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断し、他者に伝えている。			
Ⅲ	主体的に学習に取り組む態度	学習に主体的に取り組もうとしている。健康・安全を確保している。			
評価方法	観点Ⅰ		観点Ⅱ		年間時数
	テスト(実技・ペーパー) 授業時の観察		提出物 授業時の発言		授業時の観察
					提出物
置賜農業育てる能力		①健康 ②自己肯定感 ③忍耐力 ④主体性 ⑤生命 ⑥他者理解 ⑦協調性 ⑧誠実 ⑨生きる力 ⑩知識技能			

令和7年(2025年)度年間授業計画表						
学年	2 年	学科	全学科	必選	必履修	
教科	保健体育	科目	保健	単位	1 単位	
使用教材	現代高等保健体育(大修館書店)					
学習目標	① 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。 ② 健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。 ③ 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。					
単元と内容						
1 学期	現代社会と健康 生涯を通じる健康	・感染症について				
		・職業生活について				
2 学期	健康を支える環境づくり	・環境汚染について				
		・食品について				
		・医療サービスについて				
3 学期	課題解決学習	・今まで学習したものの中から興味があるものを選びクロームブックでまとめ、発表を行う。				
評 価						
評価の観点		評価の趣旨				
I	知識・技能	個人及び社会生活における健康・安全について理解し、技能を身に付けている。				
II	思考・判断・表現	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて表現している。				
III	主体的に学習に取り組む態度	学習に主体的に取り組もうとしている。健康について自分事としてとらえ行動することができる。				
評価 方法	観点Ⅰ		観点Ⅱ		観点Ⅲ	年間時数
	テスト(ペーパー) 授業時の発言 提出物		テスト(ペーパー) 授業時の発言 提出物		発表 授業時の発言 提出物	予定
						35 時間
						実施
置賜農業 育てる能力		①健康 ②自己肯定感 ③忍耐力 ④主体性 ⑤生命 ⑥他者理解 ⑦協調性 ⑧誠実 ⑨生きる力 ⑩知識技能				

令和7年(2025年)度年間授業計画表						
学年	2 年	学科	全学科	必選	共通科目	
教科	英語	科目	英語コミュニケーションⅡ	単位	2 単位	
使用教材	COMET English Communication Ⅱ (数研出版)					
学習目標	① 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況等に応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。					
	② コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。					
	③ 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。					
単元と内容						
1 学 期	基礎力診断テスト	単 語 帳 も 授 業 内 で 活 用				
	Lesson1 Places Worth Visiting			行ってみたい場所を英語で紹介する		
	Lesson3 The Haka			[want+(人)+to-不定詞]		
	1学期末テスト			世界の文化を英語で紹介する [分詞]		
2 学 期	夏期課題テスト					
	Lesson4 Digital Detox			デジタル機器との関わり方について、自分の考えを英語で述べる		
	2学期中間テスト			[if節・疑問詞節]		
	Lesson5 Goal Setting			目標を英語で述べる [seem]		
	2学期末テスト					
3 学 期	Lesson6 The High School Salon					
	学年末テスト			就きたい職業を英語で述べる		
				[助動詞+have+過去分詞]		
評 価						
評価の観点		評価の趣旨				
I	知識・技能	音声・句読法・単語や慣用表現・文構造や文法事項が身に付いている。 実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能が身に付いている。				
Ⅱ	思考・判断・表現	日常的な話題や社会的な話題について文章を読み取り、概要や要点を把握することができる。伝える内容を整理し、英語で話したり書いたりして自分自身の考えなどを伝え合うことができる。				
Ⅲ	主体的に学習に取り組む態度	英語や国内外の文化の違いに興味を持ち、その習得と理解に向けて意欲的に取り組むとともに実際に活用しようとする実践的な態度が身に付いている。				
評価 方法	観点Ⅰ		観点Ⅱ		観点Ⅲ	年間時数
	授業プリント (単語・発表原稿) 定期テスト 実技テスト (音読・暗唱・発表)		定期テスト 実技テスト(発表など)		授業の取り組み (プリント・授業態度) 自己評価シート	予定
						70 時間
						実施
置賜農業 育てる能力		②自己肯定感 ④主体性 ⑥他者理解 ⑦協調性 ⑩知識技能				

令和7年(2025年)度年間授業計画表					
学年	2 年	学科	全学科	必選	必履修
教科	家庭	科目	家庭総合	単位	2 単位
使用教材	家庭総合 明日の生活を築く(開隆堂)				
学習目標	①人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費者、環境などについて、生活を主体的に営むに必要な科学的な理解を図るとともに、技術も身につける。 ②家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見出し、解決法を探り、それらを解決する力を養う。 ③様々な人々と協働し、より良い社会の構築に向けて、地域社会に参画するとともに、生活文化を伝承し、家庭や地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。				
単元と内容					
1 学 期	◇食生活の科学と文化 ◇調理実習	・栄養の特徴、食品の栄養的特質、健康や環境に配慮した食生活、自己と家族の食生活の計画・管理。			
		・おいしさの構成要素、食品の調理上の性質、食品衛生。			
		・目的に応じた調理に必要な技能料理の様式に適した調理法や食器、盛り付けなどを踏まえて食事を整える。調理実習①洋食献立。			
2 学 期	◇子どもの生活と保育 ◇調理実習	・健康及び環境に配慮した自己と家族の食事、日本の食文化の継承・創造、持続可能な食生活、調理実験②飲料水の糖分。			
		・乳幼児期の心身の発達と生活、子供の遊びと文化、親の役割と保育、子育て支援、絵本読み聞かせ実習。			
		・子供を取り巻く社会環境の変化や課題及び子供の福祉。 調理実習②和食献立。			
		・子供を生み育てることの意義、保育の重要性、親・家族・地域・社会の果たす役割の重要性、調理実習③クリスマス献立。			
3 学 期	◇住生活の科学と文化 ◇持続可能な消費生活 ◇調理実習	・住生活を取り巻く課題、日本と世界の住文化。			
		・住生活の特徴、防災などの安全や環境に配慮した住居の機能、住生活の計画・管理、快適で安全な住空間、日本の住文化の継承・創造。			
		・経済の管理・計画、金融商品、調理実習④中華献立。			
評 価					
評価の観点		評価の趣旨			
I	知識・技能	生活を主体的に営むために必要な人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて科学的に理解しているとともに、それらに係る技能を体験的・総合的に身に付ける。			
II	思考・判断・表現	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて理論的に表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。			
III	主体的に学習に取り組む態度	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとする。			
評価 方法	観点Ⅰ		観点Ⅱ		年間時数
					予定
	ペーパーテスト 実習の取り組み 授業時プリント・実習ノート		ペーパーテスト 実習の取り組み 授業時プリント		70 時間
			振り返りシート 授業プリント 授業の取り組み (座学・実習)		実施
置賜農業 育てる能力		①健康 ②自己肯定感 ③忍耐力 ④主体性 ⑤生命 ⑥他者理解 ⑦協調性 ⑧誠実 ⑨生きる力 ⑩知識技能 ⑪地域づくり ⑫実践奉仕 ⑬社会貢献			

令和7年(2025年)度年間授業計画表					
学年	2 年	学科	食料生産経営科	必修	共通科目
教科	農業	科目	総合実習	単位	3単位(時間外1単位)
使用教材	各分野の教科書				
学習目標	① 農業の各分野について体系的・系統的に理解し、相互に関連付けられた技術を身につける。 ② 農業に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として解決策を探究し、化学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。 ③ 課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。				
単元と内容					
1 学期	グループ分け・テーマ設定・年間計画立案 調査・研究・実験・作品製作等・実習・ 発表準備(まとめ)・校内プロジェクト発表会 宿泊実習、長期休業中実習等		グループで興味・関心、進路希望に応じて、農業に関する研究テーマを設定する。		
			課題を整理し、課題解決に向けた調査、研究、実験等に取り組む。		
			作品製作においては、成果物を各分野に関連するコンテストやコンクールへ応募することも検討する。		
			発表会に向けてグループで協力して準備を進める。		
			家畜管理について実習、長期休業・放課後実習の実施。		
2 学期	調査・研究・実験・作品製作等・実習・ 発表準備(まとめ)・県プロジェクト発表会		課題を整理し、課題解決に向けた調査、研究、実験等に取り組む。		
			作品製作においては、成果物を各分野に関連するコンテストやコンクールへ応募することも検討する。		
			発表会に向けてグループで協力して準備を進める。		
3 学期	学科内プロジェクト発表会 研究集録作成		次年度に向けての課題を整理する。		
			次年度の校内プロジェクト発表会を見据え、発表準備や発表会を進める。		
評価					
評価の観点		評価の趣旨			
I	知識・技術	農業の各分野について体系的・系統的に理解し、相互に関連付けられた技術を身につけている。			
II	思考・判断・表現	農業に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として解決策を探究し、化学的な根拠に基づいて創造的に解決する力や態度が身についている。			
III	主体的に学習に取り組む態度	課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度が身についている。			
評価方法	観点Ⅰ		観点Ⅱ		年間時数
	・活動の様子 ・記録、プレゼンテーション ・発表力		・活動の様子 ・記録、プレゼンテーション ・発表力 ・提出物		予定
					105時間 (時間外35時間)
					実施
置賜農業育てる能力		①健康 ②自己肯定感 ③忍耐力 ④主体性 ⑤生命 ⑥他者理解 ⑦協調性 ⑧誠実 ⑨生きる力 ⑩知識技能 ⑪地域づくり ⑫実践奉仕 ⑬社会貢献			

令和7年(2025年)度年間授業計画表					
学年	2 年	学科	農業資源活用科	必選	共通科目
教科	農業	科目	総合実習	単位	3単位(時間外1単位)
使用教材	各分野の教科書				
学習目標	① 農業の各分野について体系的・系統的に理解し、相互に関連付けられた技術を身につける。 ② 農業に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として解決策を探究し、化学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。 ③ 課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。				
1 学期	グループ分け・テーマ設定・年間計画立案 調査・研究・実験・作品製作等・実習・ 発表準備(まとめ)・校内プロジェクト発表会 期休業中実習等	長	グループで興味・関心、進路希望に応じて、農業に関する研究テーマを設定する。		
			課題を整理し、課題解決に向けた調査、研究、実験等に取り組む。		
			作品製作においては、成果物を各分野に関連するコンテストやコンクールへ応募することも検討する。		
			発表会に向けてグループで協力して準備を進める。		
			長期休業・放課後実習の実施		
2 学期	調査・研究・実験・作品製作等・実習・ 発表準備(まとめ)・県プロジェクト発表会		課題を整理し、課題解決に向けた調査、研究、実験等に取り組む。		
			作品製作においては、成果物を各分野に関連するコンテストやコンクールへ応募することも検討する。		
			発表会に向けてグループで協力して準備を進める。		
3 学期	校内発表会 研究集録作成		次年度に向けての課題を整理する。		
			次年度の校内プロジェクト発表会を見据え、発表準備や発表会を進める。		
評 価					
評価の観点		評価の趣旨			
I	知識・技術	農業の各分野について体系的・系統的に理解し、相互に関連付けられた技術を身につけている。			
II	思考・判断・表現	農業に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として解決策を探究し、化学的な根拠に基づいて創造的に解決する力や態度が身についている。			
III	主体的に学習に取り組む態度	課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度が身についている。			
評価方法	観点Ⅰ		観点Ⅱ		年間時数
	・活動の様子 ・記録、プレゼンテーション ・発表力		・活動の様子 ・記録、プレゼンテーション ・発表力 ・提出物		予定
					105時間 (時間外35時間)
					実施
置賜農業育てる能力		①健康 ②自己肯定感 ③忍耐力 ④主体性 ⑤生命 ⑥他者理解 ⑦協調性 ⑧誠実 ⑨生きる力 ⑩知識技能 ⑪地域づくり ⑫実践奉仕 ⑬社会貢献			

令和7年(2025年)度年間授業計画表					
学年	2 年	学科	食料生産経営科	必選	選択
教科	農業	科目	作物	単位	2 単位
使用教材	作物(実教出版)				
学習目標	① 作物の生産と経営について理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 ② 作物の生産と経営に関する課題を発見し、合理的かつ創造的に解決する力を養う。 ③ 農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。				
単元と内容					
1 学期	作物生産の役割と動向 イネ	作物とは、作物栽培の動向			
		作物の種類と特徴、作物の生育と生理、栽培環境と生育の調整			
		栽培的特性、栽培管理			
2 学期	作物の特性と栽培技術 麦類・トウモロコシ・豆類・いも類 イネ	作物の種類と特徴、作物の生育と生理、栽培環境と生育の調整			
		栽培的特性、栽培管理、生育の特性			
		栽培的特性、栽培管理			
3 学期	作物の流通と経営の改善 イネ	流通とその改善			
		経営とその改善			
		栽培的特性、栽培管理			
評 価					
評価の観点		評価の趣旨			
I	知識・技術	作物の生産と経営について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術が身に付いている。			
II	思考・判断・表現	作物の生産と経営に関する課題を発見し、農業や関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力が身に付いている。			
III	主体的に学習に取り組む態度	作物の生産と経営について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度が身に付いている。			
評価 方法	観点Ⅰ		観点Ⅱ		年間時数
	学習状況の観察、記述の点検(ノート、ワークシート等)、定期考査、小テスト		学習状況の観察(発表等のパフォーマンスの評価)、記述の点検(ノート、ワークシート等)、定期考査		予定
					70時間
					実施
置賜農業育てる能力		①健康 ②自己肯定感 ③忍耐力 ④主体性 ⑤生命 ⑥他者理解 ⑦協調性 ⑧誠実 ⑨生きる力 ⑩知識技能 ⑪地域づくり ⑫実践奉仕 ⑬社会貢献			

令和7年(2025年)度年間授業計画表					
学年	3 年	学科	食料生産経営科	必選	共通科目
教科	農業	科目	畜産	単位	2 単位
使用教材	実教出版「畜産」				
学習目標	①家畜の飼育と畜産経営について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 ②家畜の飼育と畜産経営に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 ③家畜の飼育と畜産経営について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。				
単元と内容					
1 学期	第1章 日本の畜産の特徴と役割 畜産の特徴、畜産物の需給動向、畜産の役割・課題 第2章 動物の生理・生態と飼育環境 動物の生理・生態、飼育環境 【実習】家畜の飼養管理	・日本と諸外国の畜産の違い			
		・日本の畜産の歴史、現状			
		・日本の畜産物の需給の動向			
		・畜産の現状と課題			
2 学期	第2章 動物の生理・生態と飼育環境 家畜排せつ物の処理・利用 第3章 家畜と飼料 家畜の栄養、飼料 【実習】家畜の飼養管理	・動物の身体の機能			
		・家畜排せつ物の処理			
		・堆肥化、堆肥舎			
		・堆肥以外の処理			
		・栄養、飼料成分			
3 学期	第4章 家畜の飼育 養鶏、緬山羊 【実習】家畜の飼養管理	・飼料の安全			
		・ニワトリの生理、生態			
		・ニワトリの一生			
		・卵用鶏、肉用鶏の生産			
		・ヒツジ、ヤギの生産			
評 価					
評価の観点		評価の趣旨			
I	知識・技術	家畜の生産や日本の畜産業の概要について理解している。			
II	思考・判断・表現	安全な畜産物の生産における課題を発見し、合理的かつ創造的な解決に向けて思考し、他者に伝えることができる。			
III	主体的に学習に取り組む態度	安全な畜産物の生産、品質の向上に向けて主体的にかつ協働的に取り組んでいる。			
評価方法	観点Ⅰ		観点Ⅱ		年間時数
	定期テスト ワークシート		ワークシート 発表 実習		発表 実習
					予定
					70 時間
					実施
置賜農業育てる能力		①健康 ②自己肯定感 ③忍耐力 ④主体性 ⑤生命 ⑥他者理解 ⑦協調性 ⑨生きる力 ⑩知識技能 ⑪地域づくり ⑫実践奉仕 ⑬社会貢献			

令和7年(2025年)度年間授業計画表					
学年	2 年	学科	食料生産経営科	必選	学校設定科目
教科	農業	科目	地域園芸	単位	2 単位
使用教材	野菜(実教出版)、果樹(実教出版)				
学習目標	①園芸作物の生産と経営について体系的・系統的に理解し、関連技術を身に付ける。 ②課題を発見し、農業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 ③地域の先進的な農業を意欲的に学び、6次産業化に向けた経営感覚の醸成を図る。				
単元と内容					
1 学期	生産の役割と動向 ◎野菜の分類 ◎安心安全な野菜 (実習)夏野菜の栽培・収穫物の調製と販売 ◎果樹の種類と果実の利用 ◎果樹の生育と栽培環境 (実習)ブドウ、リンゴ、オウトウ、カキの栽培管理	野菜	○温室・ほ場で栽培する夏野菜の特性を理解する。		
		野菜	○野菜の生産と育苗について理解する。		
		野菜	○育苗が、野菜の品質を大きく左右することを説明できる。		
		果樹	○果樹とは、どのような作物かを理解する。		
		果樹	○果実の食料的価値及びその特徴を理解する。		
		果樹	○果樹の生育・栽培管理について、置賜地域の品目(リンゴ、オウトウ、ブドウ、カキ)を中心に理解する。		
2 学期	生育特性と栽培環境の調節技術 ◎野菜の生育と生理 ◎光合成のしくみと物質の生産 ◎人工環境における栽培技術(養液栽培) (実習)秋野菜の播種と管理 ◎果樹の生育と栽培環境 ◎果樹栽培の一生、栽培管理の現状 (実習)ブドウ、リンゴ、オウトウ、カキの栽培管理 収穫物の調整と販売	野菜	○温室・ほ場で栽培する秋・冬野菜の特性を理解する。。		
		野菜	○基本的な栽培の知識(光合成・呼吸など)を理解し、その栽培技術を習得する。		
		野菜	○収穫・調製の仕方、販売方法などを作物ごとに説明でき、消費者に説明しながら販売することができる。		
		果樹	○環境条件(気温、日照、降水量、風、土壌、水分、栄養)が、果樹の生育にどのように影響するのかを理解する。		
		果樹	○栽培環境に合わせた栽培管理について理解する。		
3 学期	栽培管理技術の理解 ◎果実・葉や花茎・根を利用する野菜の栽培 ◎果樹の結果習性及び整枝、剪定の基礎	野菜	○野菜の基本的な知識・技術を理解できる。		
		野菜	○温室・ほ場の野菜栽培の学習に意欲的に取り組むことができる。		
		果樹	○果実の生産性と結果習性について理解する。		
		果樹	○整枝・剪定技術の基本を習得する。		
評 価					
評価の観点		評価の趣旨			
I	知識・技術	野菜及び果樹の生産性と品質の向上を図るために、栽培技術の習得に努め、経営についても体系的に理解する。			
II	思考・判断・表現	生産と経営に関する課題について意見を述べ、改善策を指導者と共に話し合うことができる。			
III	主体的に学習に取り組む態度	生産技術と経営について関心を持ち、経営を発展させるために品質の向上を目指して取り組むことができる。			
評価方法	観点Ⅰ		観点Ⅱ		年間時数
	記録の確認(ノート・クロームブック) 行動の記録 口頭試問による確認(実技試験)		記録の確認(ノート・クロームブック) 行動の記録 (改善点を見出す意見を評価) 口頭試問による確認(実技試験)		予定
					70 時間
					実施
置賜農業育てる能力		①健康 ②自己肯定感 ③忍耐力 ④主体性 ⑤生命 ⑥他者理解 ⑦協調性 ⑧誠実 ⑨生きる力 ⑩知識技能 ⑪地域づくり ⑫実践奉仕 ⑬社会貢献			

令和7年(2025年)度年間授業計画表					
学年	2 年	学科	農業資源活用科	必選	共通科目
教科	農業	科目	草花	単位	2 単位
使用教材	草花(実教出版)				
学習目標	温室(土耕・馴化)と圃場(花壇等)を学習の場として、一貫した草花栽培の実践と経営技術について学ぶ。また、地域の立地条件に適合した草花栽培に必要な基礎的・基本的な知識と技術を習得させるとともに、積極的に新たな技術を創造する能力と態度を育てる。				
単元と内容					
1 学期	◎草花とプロジェクト学習 ◎草花園芸の特徴と栽培技術 (品種改良と繁殖、育苗) ◎切り花、花壇苗、鉢物の栽培管理 ◎栽培環境の調節		○苗管理が適切に、意欲的にできたか。		
			○草花栽培の繁殖と育苗の重要性について理解できたか。		
			○切り花、花壇苗、鉢物の生産と品質について説明できるか。		
			○草花生産と育苗の基本的な知識が身についたか。		
2 学期	◎草花の栽培と環境管理 ◎切り花、鉢物等の管理 ◎切り花、鉢物の商品化 ◎草花の栽培、温室施設、花壇等整備		○温室、花壇、圃場等の草花栽培の学習に意欲的に取り組んだか。		
			○栽培の基本的な知識・技術が理解できたか。		
			○栽培管理、収穫・調整の仕方、商品化等の説明できるか。		
3 学期	これからの草花園芸 ◎草花生産の経営的特徴 ◎施設管理・整備		○基本的な知識・技術を理解できたか。		
			○温室、花壇、圃場等の草花栽培の学習に意欲的に取り組んだか。		
評 価					
評価の観点		評価の趣旨			
I	知識・技術	草花園芸の経営について、体系的に理解する。 生産性と品質の向上を図るために、栽培技術の習得に努める。			
II	思考・判断・表現	生産と経営に関する課題について意見を述べ、改善策を指導者と共に話し合うことで深めている。			
III	主体的に学習に取り組む態度	生産技術と経営について関心を持ち、経営を発展させるために品質の向上へ取り組むことができる。			
評価方法	観点Ⅰ		観点Ⅱ		年間時数
	記述の確認(ノート) 定期考査 口頭試問による確認(実技試験)		行動の記録 (改善点を見出す意見を評価)		予定
					70 時間
					実施
置賜農業育てる能力		①健康 ②自己肯定感 ③忍耐力 ④主体性 ⑤生命 ⑥他者理解 ⑦協調性 ⑧誠実 ⑨生きる力 ⑩知識技能 ⑪地域づくり ⑫実践奉仕 ⑬社会貢献			

令和7年(2025年)度年間授業計画表					
学年	2 年	学科	農業資源活用科	必選	選択
教科	農業	科目	生物活用	単位	2 単位
使用教材	生物活用(実教出版)				
学習目標	① 実践的・体験的な学習を通し、園芸作物の心身の健康及び社会的な健康に活用する方法を学ぶ ② 生物の特性を理解し、生活の質の向上につながるよう協働的・主体的に学ぶ姿勢を身に付ける ③ プロジェクト学習を通し、生物活用の視点から課題を解決する力を養う				
単元と内容					
1 学期	生物活用の意義と役割 園芸作物の栽培と利用		生物活用とは何か		
			私たちの暮らしと生物活用		
			私たちの暮らしと園芸		
2 学期	園芸作物の栽培と活用 生物を活用した療法(植物・園芸療法) 生物活用の実践(植物)		草花の種類と特性		
			花壇の活用と管理		
			植物を治療に活用する		
			園芸療法とは		
			交流活動の大切さ		
3 学期	生物活用の実践(植物)		交流活動の実施と流れ		
			交流活動の計画		
			活動のまとめと発表		
			交流活動の振り返り		
評 価					
評価の観点		評価の趣旨			
I	知識・技術	生物活用について体系的系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。			
II	思考・判断・表現	生物活動における諸活動に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に課題を課題を解決する力が身に付いている。			
III	主体的に学習に取り組む態度	生物活用について、生物の特性を活用し生活の質の向上につながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的行動的に取り組む態度が見られる。			
評価方法	観点Ⅰ		観点Ⅱ		年間時数
	学習状況の観察、記述の点検(ノート、ワークシート等)、定期考査、小テスト		学習状況の観察(発表等のパフォーマンスの評価)、記述の点検(ノート、ワークシート等)、定期考査		予定
					70 時間
					実施
置賜農業育てる能力		①健康 ②自己肯定感 ③忍耐力 ④主体性 ⑤生命 ⑥他者理解 ⑦協調性 ⑧誠実 ⑨生きる力 ⑩知識技能 ⑪地域づくり ⑫実践奉仕 ⑬社会貢献			

令和7年(2025年)度年間授業計画表					
学年	2 年	学科	農業資源活用科	必選	選択
教科	農業	科目	地域資源活用	単位	2 単位
使用教材	実教出版「地域資源活用」				
学習目標	①地域資源の活用について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけるようにする。 ②地域資源の活用に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 ③地域資源の活用について新たな価値の創造に寄与できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的にとり組む態度を養う。				
単元と内容					
1 学期	第1章 地域資源活用とは 第2章 農山村社会の変化と地域振興 第3章 地域資源活用の意義と役割 1節 地域資源の魅力と価値	・農山村の意義と役割、地域資源活用の意義を学ぶ。			
		・地域資源の特性と活用方法を学ぶ。			
		・自治体で行なっている地域活性化の施策・取り組み、その方法を学ぶ。			
		・地域資源の様々な活用方法を考える。			
2 学期	第3章 地域資源活用の意義と役割 2節 地域振興に向けた施策と取組 3節 異業種連携と商品価値の創造 4節 地域資源活用の実践と課題	・国内外の地域資源活用推進の方策の事例を学ぶ。			
		・農村地域の地域資源とその価値について理解する。			
		・異業種と農業の連携、地域資源とその価値について理解する。			
		・NPOなど社会的企業活動について学ぶ。			
		・人や地域の連携について学び、対人サービスやマナーを身につける。			
3 学期	第3章 地域資源活用の意義と役割 5節 情報の活用と発信	・地域資源の情報発信の方法を学ぶ。			
		・地域資源のマーケット情報の収集・調査方法を学ぶ。			
評 価					
評価の観点		評価の趣旨			
I	知識・技術	地域資源の活用について体系的・系統的に理解し、関連する技術が身についている。			
II	思考・判断・表現	地域資源の活用に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力が身についている。			
III	主体的に学習に取り組む態度	地域資源の活用について新たな価値の創造に寄与できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的にとり組む態度が身についている。			
評価方法	観点Ⅰ		観点Ⅱ		年間時数
	定期テスト 実習		定期テスト 実習 提出物		授業の取組 (態度、出席状況、協働性) 提出物
					70時間
					実施
置賜農業 育てる能力		①健康 ②自己肯定感 ③忍耐力 ④主体性 ⑤生命 ⑥他者理解 ⑦協調性 ⑧誠実 ⑨生きる力 ⑩知識技能 ⑪地域づくり ⑫実践奉仕 ⑬社会貢献			

令和7年(2025年)度年間授業計画表					
学年	2 年	学科	全学科	必選	
教科	英語	科目	論理・表現 I	単位	2 単位
使用教材	MY WAY Logic and Expression I (三省堂)				
学習目標	① 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況等に応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。 ② コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。 ③ 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。				
単元と内容					
1 学期	基礎学力テスト L.1 Let's Talk about Ourselves L.2 School Life 期末テスト	初対面のあいさつ、現在形(be動詞)			
		自己紹介のスピーチ、現在形(一般動詞)			
		好きだった教科についての会話、過去形(be動詞、一般動詞)			
		部活動を紹介する記事の原稿、現在進行形、過去進行形			
		あなたの学校や町を紹介しよう			
2 学期	課題テスト L.3 The Arts 中間テスト L.4 Food and Culture 期末テスト	週末の予定についての会話、未来表現			
		好きな絵についての発表、基本時制のまとめ			
		料理を注文するときの会話、現在完了形1			
		日本の食文化を紹介するレポート			
		現在完了形2、現在完了進行形			
3 学期	L.5 Welcome to Our Town 学年末テスト	道案内の会話、助動詞			
		地域の特徴やマスコットキャラクターについての発表			
		受動態			
		観光案内をしよう			
評 価					
評価の観点		評価の趣旨			
I	知識・技能	音声・句読法・単語や慣用表現・文構造や文法事項が身に付いている。 実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能が身に付いている。			
II	思考・判断・表現	日常的な話題や社会的な話題について文章を読み取り、概要や要点を把握することができる。伝える内容を整理し、英語で話したり書いたりして自分自身の考えなどを伝え合うことができる。			
III	主体的に学習に取り組む態度	英語や国内外の文化の違いに興味を持ち、その習得と理解に向けて意欲的に取り組むとともに実際に活用しようとする実践的な態度が身に付いている。			
評価方法	観点 I		観点 II		年間時数
	語彙シート(学習前) 筆写シート(学習後) 定期テスト 実技テスト (音読・暗唱など)		定期テスト レポート パフォーマンステスト (発表)		予定
			授業の取り組み (ノート・プリント・ 発表練習・授業態度)		70 時間
					実施
置賜農業 育てる能力		④主体性 ⑥他者理解 ⑦協調性 ⑩知識技能 ⑪地域づくり ⑬社会貢献			

令和7年(2025年)度年間授業計画表					
学年	2年	学科	全学科	必修	選択
教科	農業	科目	食品製造	単位	2単位
使用教材	食品製造(実教出版)				
学習目標	① 食品製造に必要な知識と技術を習得させる。 ② 食品の特性と加工方法および貯蔵の原理を理解させるとともに、品質と生産性の向上を図る能力と態度を育てる。 ③ 食材の持つ特性や、様々な加工方法・品質の向上方法について学び、農業の振興や地域貢献に主体的かつ共同的にとり組む態度を養う。				
単元と内容					
1 学期	第1章 食品製造の意義と動向 1. 食品製造の意義 2. 食品産業の現状と動向 第2章 食品製造の基礎 第6章 農産物の加工 (実習)小麦粉加工・果実加工		・食品製造が食生活に果たす役割を理解する。		
			・食品産業の特色と課題について理解する。		
			・加工食品の種類や特徴を理解する。		
			・小麦粉の分類・用途を理解する。		
			・果実(ジャム・ジュース)の原料特性、製造方法を理解し、安全に実習できるようになる。		
2 学期	第3章 食品の変質と貯蔵 1. 食品の変質とその原因 2. 食品の貯蔵法 第6章 農産物の加工 (実習)果実加工・乳加工		・食品が変質した原因を理解し、変質した食品がどのような様子を示すか学ぶ。		
			・食品の各貯蔵法の原理とその方法を学ぶ。		
			・農産物の加工原理について理解する。		
3 学期	(実習)小麦粉加工(パン・麺) パンの起源・種類 麺の種類・規格・日本各地の麺		・小麦を利用した加工食品の作り方を理解する。また、パンや麺の起源や規格、地域による特徴を知る。		
評価					
評価の観点		評価の趣旨			
I	知識・技術	食品製造に関する基礎的な知識・技術を身に付け、製造実習において適切に実施することができる。			
II	思考・判断・表現	食品に関する知識思考を深め、製造品目ごとの適切な作業方法などを的確に判断することができる。			
III	主体的に学習に取り組む態度	食品製造について関心を持ち、衛生面に配慮しながら意欲的に取り組むことができる。			
評価方法	観点Ⅰ		観点Ⅱ		年間時数
	授業時の観察 ノート・配布プリントの点検 製造物の観察		提出物 授業時の発言 ノート・配布プリントの点検		授業時の観察
					服装検査
					提出物
置賜農業 育てる能力		①健康 ②自己肯定感 ④主体性 ⑤生命 ⑥他者理解 ⑦協調性 ⑨生きる力 ⑩知識技能 ⑪地域づくり ⑫実践奉仕 ⑬社会貢献			

令和7年(2025年)度年間授業計画表					
学年	2 年	学科	全学科	必選	選択
教科	農業	科目	測量	単位	2 単位
使用教材	農業測量(実教出版)				
学習目標	①測量に必要な知識と技術を習得する。 ②測定値の処理と測定機器と特質を理解し、扱うことができる。 ③各種事業に応用する能力と態度を身に付ける。				
単元と内容					
1 学期	1 平板測量の器具 2 平板のすえつけ 3 平板測量の方法 4 面積の算定	何のために測量を学ぶのか、その心構えや歴史について理解する。			
		骨組みから細部への測量など、測量作業の手順を理解する。			
		平板測量に必要な道具を理解する。			
2 学期	1 水準測量の器械・器具 2 水準測量の方法 3 測量の誤差 4 水準測量の誤差	レベルのすえつけと、レベルの種類を理解する。			
		誤差の種類と原因および対策が分かる。			
		水準測量の測定方法と誤差調整が出来るように理解する。			
3 学期	トラバース測量 1 トータルステーション 2 地理空間情報	トータルステーションの取り扱いと作業手順を理解する。			
		トータルステーションによって得た情報を図面に起こすことができる。			
		測量に関する幅広い知識を身に付け、得た情報を処理できる。			
評 価					
評価の観点		評価の趣旨			
I	知識・技術	測量について体系的系統的に理解するとともに、関連する技術が身に付いている。			
II	思考・判断・表現	測量の方法に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に課題を課題を解決する力が身に付いている。			
III	主体的に学習に取り組む態度	測量について、国土保全や環境創造に応用できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度が見られる。			
評価方法	観点Ⅰ		観点Ⅱ		年間時数
	学習状況の観察、 記述の点検 (ノート、ワークシート等) 定期考査		学習状況の観察、 記述の点検 (ノート、ワークシート等)、 定期考査		予定
					70 時間
					実施
置賜農業 育てる能力		①健康 ②自己肯定感 ③忍耐力 ④主体性 ⑤生命 ⑥他者理解 ⑦協調性 ⑧誠実 ⑨生きる力 ⑩知識技能 ⑪地域づくり ⑫実践奉仕 ⑬社会貢献			

令和7年(2025年)度年間授業計画表						
学年	2年	学科	全学科	選必	選択	
教科	家庭科	科目	保育基礎	単位	2 単位	
使用教材	保育基礎 実教出版					
学習目標	① 保育の意義や方法、発達や生活の特徴及び福祉と文化について、体系的・系統的に理解し、関連する技術を身に付ける。 ② 子どもを取り巻く課題を発見し、保育を担うものとして合理的かつ創造的に解決する力を養う。 ③ こどもの健やかな発達を目指して自ら学び、保育に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。					
単元と内容						
1 学 期	1. 子どもの保育 2. 子どもの発達	・保育の意義と重要性について人間形成とどのようにかわるかを理解する。				
		・家庭での保育や保育の場の特徴や役割を理解する。				
		・子供を取り巻く環境の変化や保育の課題から今後の保育環境を考える。				
		・子どもの発達の共通性と個別性を理解する。				
		・子どものからだと心の発達の特徴を理解するとともにかかわり方を学ぶ。				
2 学 期	3. 子どもの文化 4. 子どもの生活	・子どもの健やかな発達のために児童文化財の意義について理解する。				
		・子どもの発達と遊びの重要性を理解し、発達段階に応じた遊具を作ることができる。				
		・子どもと触れ合う機会や保育の様子を観察を通し、適切なかわり方を学ぶ。				
		・子どもが心身の健康を保つために保育の技術を身に付ける。				
		・適切な生活習慣とその援助について考える。				
		・子どもの健康管理や事故防止について実態や原因を理解できる。				
3 学 期	5. 子どもの福祉	・子どもの福祉に関心を持ち、児童福祉の理念や法律と制度について理解できる。				
		・子どもを地域や社会で支える子育て支援の場や制度を理解する。				
評 価						
評価の観点		評価の趣旨				
I	知識・技能	保育に関する基礎的・基本的な技術を総合的に身に付けている。子どもの発達の特性、生活と保育に関する知識を総合的に身に付けている。				
II	思考・判断・表現	子どもの発達や保育にかかわる現状について理解を深めたくうえで課題を見つけ、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し工夫し創造する能力を身に付けている。				
III	主体的に学習に取り組む態度	子どもの発達や保育への関心を持ち、意欲的に学習に取り組み、子どもの健やかな発達や保育に寄与していこうとする実践的な態度を身に付けている。				
評価 方法	観点Ⅰ		観点Ⅱ		観点Ⅲ	年間時数
	小テスト 定期テスト 学習プリント レポート 製作物		定期テスト 学習プリント レポート グループワーク (事例検討・ロールプレイ)		振り返りシート 学習プリント 各種提出物	予定
						70時間
						時間
置賜農業 育てる能力		①健康 ②自己肯定感 ③忍耐力 ④主体性 ⑤生命 ⑥他者理解 ⑦協調性 ⑧誠実 ⑨生きる力 ⑩知識技能 ⑪地域づくり ⑫実践奉仕 ⑬社会貢献				

令和7年(2025年)度年間授業計画表					
学年	2 年	学科	全学科	必選	選択必履修
教科	理科	科目	地学基礎	単位	2 単位
使用教材	教科書：高等学校 地学基礎(数研出版) 副教材：新課程高等学校地学基礎準拠サポートノート(数研出版)				
学習目標	① 日常生活や社会との関連を図りながら、地球や地球を取り巻く環境について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。 ② 観察・実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 ③ 地球や地球を取り巻く環境に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然 環境の保全に寄与する態度を養う。				
単元と内容					
1 学期	第5編 太陽系と宇宙 第1章 太陽系と太陽 1. 太陽系の天体 2. 太陽 3. 太陽系の誕生と現在の地球 第2章 宇宙の誕生 第1編 活動する地球 第1章 地球の構造 1. 地球の形と大きさ 2. 地球の構造		・太陽系を構成する天体について理解を深める。		
			・太陽や惑星の特徴、天体の動きについて学び、これらの天体が古代農業に与えた影響について考える。		
			・天体の動きに基づく暦の誕生と旧暦について学ぶ。		
			・太陽系惑星としての地球の形や大きさ、構造について学ぶ。 また、太陽との関係性や影響について学習する。		
2 学期	第3編 大気と海洋 第1章 地球の熱収支 1. 大気の大循環 2. 地球全体の熱収支 第2章 大気と海水の運動 1. 大気の大循環 2. 海水の運動 3. 日本の天気と気象災害 第4編 地球の環境 第1章 地球の環境と日本の自然環境 1. 気候の自然変動 2. 人間活動による環境変化 3. 日本の自然環境		・地球の大気の層構造と気象現象について学ぶ。		
			・太陽と地球のエネルギー収支と自然環境のかかわりについて学び、地球表面の熱の移動に大気や海水の大きな循環がかかわっていることを理解する。		
			・日本の各季節の天気の特徴を理解する。		
			・気候の自然変動や人間活動による環境変化について、地球規模でとらえ考える力を身に付ける。		
			・気象災害をはじめ多発する地震や火山活動などの自然災害について、そのしくみを理解し防災について考える。		
3 学期	第1編 活動する地球 第2章 プレートの運動 第3章 地震 第4章 火山 第2編 移り変わる地球 第1章 地層の形成 第2章 古生物の変遷と地球環境		・堆積や浸食で形成される陸上と海底の地形や地層の形成について学ぶ。地球環境と古生物は互いに影響し合って変遷してきたことを理解する。		
評 価					
評価の観点		評価の趣旨			
I	知識・技能	さまざまな自然現象について基礎的な知識を身に付ける。 理科の見方・考え方を習得し、見通しをもった観察や実験方法を身に付ける。			
II	思考・判断・表現	身の回りの事物・現象を地球規模の環境まで視野に入れ、科学的、多面的、総合的に表現できる。 観察・実験より、結果や考察を科学的に相手に伝えることができる。			
III	主体的に学習に取り組む態度	さまざまな自然現象について意欲的に理解しようとし、科学的な見方や考え方ができる。			
評価方法	観点Ⅰ		観点Ⅱ		年間時数
	○定期テスト(年4回) ○小テスト ○授業プリント ○問題演習 ○実験操作 ○レポート		○定期テスト(年4回) ○問題演習 ○実験考察 ○レポート内容 ○発表内容		予定
					70 時間
					実施
置賜農業 育てる能力		①健康 ②自己肯定感 ③忍耐力 ④主体性 ⑤生命 ⑥他者理解 ⑦協調性 ⑧誠実 ⑨生きる力 ⑩知識技能 ⑪地域づくり ⑫実践奉仕 ⑬社会貢献			

令和7年(2025年)度年間授業計画表					
学年	2年	学科	全学科	必選	選択
教科	芸術	科目	アグリデザイン	単位	2 単位
使用教材					
学習目標	①訴求力がある、あるいはブランド力をもったデザインとそうでないものとの違いを分析し、図形や色彩、文字の書体の扱い方などの違いを理解する。 ②商品の魅力、情報の優先順位を整理し、商品の特色を明確かつ魅力的にあらわすためのデザインを提案する。 ③提案を多く行い、活発に議論し、柔軟に取捨選択を行い、デザインをより良いものにするためのブラッシュアップを繰り返し、ラベル・パッケージの完成度を高め、販売に臨む。				
単元と内容					
1 学期	オリエンテーション				
	7月の『こまつ市』で販売する商品ラベル・パッケージのデザイン	現行デザインの分析 →商品の魅力の整理 →デザイン提案 →中間発表・批評 →ブラッシュアップ・完成			
2 学期	置農祭で販売する商品ラベル・パッケージのデザイン	現行デザインの分析 →商品の魅力の整理 →デザイン提案 →中間発表・批評 →ブラッシュアップ・完成			
3 学期	冬・春に販売する商品のラベル・パッケージのデザイン	現行デザインの分析 →商品の魅力の整理 →デザイン提案 →中間発表・批評 →ブラッシュアップ・完成			
評 価					
評価の観点		評価の趣旨			
I	知識・技術	造形理論・色彩学・文字の書体などを理解し、その的確な扱い方を学ぶ。			
II	思考・判断・表現	商品の特色を明確かつ魅力的にあらわすデザインを考え、提案する。			
III	主体的に学習に取り組む態度	提案を多く行い、活発に議論し、柔軟に取捨選択を行い、デザインをより良いものにするためのブラッシュアップを繰り返す。			
評価方法	観点Ⅰ	観点Ⅱ	観点Ⅲ	年間時数	
	議論への参加態度 デザイン提案の積極性 作品提出完成度	議論への参加態度 デザイン提案の積極性 作品提出完成度	議論への参加態度 デザイン提案の積極性 作品提出完成度	予定	
				70時間	
				実施	
育てる能力		主体性 生きる力 実践奉仕 社会貢献			

令和7年(2025年)度年間授業計画表					
学年	2 年	学科	全学科	必選	選択
教科	農業	科目	農業と情報	単位	2 単位
使用教材	農業と情報(実教出版)				
学習目標	①農業に関する情報について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を 身に付けるようにする。 ②農業情報の活用に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 ③情報モラルや情報セキュリティに関する理解を深め、社会の変化に対応できる人材を育成する。				
単元と内容					
1 学 期	第1章 私たちの生活と農業の情報化 第2章 社会を支えるコンピューター 第3章 コミュニケーションと情報デザイン ○文書の作成と表現(文書作成ソフトの活用) (期末テスト)	・情報化社会における、メディアリテラシーや情報モラルなどを理解する。			
		・農業における、情報の役割やデータ収集の大切さについて理解する。			
		・コンピューターのしくみや情報セキュリティ管理などを理解する。			
		・情報を活用するソフトウェアについて理解する。			
		・文書作成ソフトの基本的な利用方法を理解する。			
2 学 期	○文書の作成と表現(文書作成ソフトの活用) ○データの集計と視覚化(表計算ソフトの活用) (中間テスト) ○データベースの利用と画像処理・動画編集 ○プレゼンテーションソフトの活用 (期末テスト)	・文書作成ソフトを活用するための十分な技能を身につける。			
		・表計算ソフトを活用するための十分な技能を身につける。			
		・データ処理やグラフ作成の技術をプロジェクト学習で活用できるようにする			
		・データベースや画像等をプレゼンテーションに取り入れ、プロジェクト学習の発表をできるようにする。			
3 学 期	○情報発信 第4章 スマート農業への展望 ○プログラムの設計 第5章 農業情報の分析と活用 (学年末テスト)	・基本的なHTMLのタグを理解する。			
		・地域のスマート農業の実際について知り、理解する。			
		・プログラム設計について理解する			
		・農業経営における情報処理システムの利用場面と効果を考える。(経営科)			
		・統計や市場などの情報外部情報の重要性と役割を理解する。(活用科)			
評 価					
評価の観点		評価の趣旨			
I	知識・技術	農業と情報に関する基本的な知識や用語、情報技術の活用事例、情報モラルやセキュリティなどを理解する。			
II	思考・判断・表現	農業情報の活用について、職業人に求められる倫理観を持って思考を深め、科学的な根拠などに基づいて創造的に判断し、その過程や結果を適切に表現している。			
III	主体的に学習に取り組む態度	農業情報を活用した事例に関心を持ちながら、農業振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身につけている。			
評価 方法	観点Ⅰ		観点Ⅱ		年間時数
	定期テスト 授業の取り組み (授業のデータ提出、態度)		定期テスト 授業の取り組み (データ処理のプロセス)		定期テスト 授業の取り組み (データ処理のプロセス)
					予定
					70 時間
					実施
置賜農業 育てる能力		①健康 ②自己肯定感 ③忍耐力 ④主体性 ⑤生命 ⑥他者理解 ⑦協調性 ⑧誠実 ⑨生きる力 ⑩知識技能 ⑪地域づくり ⑫実践奉仕 ⑬社会貢献			

令和7年(2025年)度年間授業計画表					
学年	2 年	学科	全学科	必選	選択
教科	農業	科目	農業機械	単位	2 単位
使用教材	実教出版「農業機械」				
学習目標	①農業機械について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 ②農業機械に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 ③農業機械について特性を理解し、効率的な利用へつながらよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。				
単元と内容					
1 学期	第1章 農業機械の役割 農業機械の特徴、種類、利用、現状 実習1 農業機械の種類 実習2 トラクタの運転操作 第5章 農業機械と安全 農作業による事故の実態、安全な操作		・農業機械の特徴や役割の理解		
			・乗用トラクタの構造と運転操作		
			・作業安全の理解		
2 学期	第2章 原動機 電動機と内燃機関 実習3 エンジンの種類 第3章 トラクタ 乗用、歩行用トラクタの種類、操作 実習4 トラクタ等の運転操作		・乗用トラクタ等の構造と運転操作		
			・内燃機関の種類や原理、構造の理解		
			・電動機の原理、構造の理解		
			・各種アタッチメントの構造と操作		
			・各種農業機械の構造と取り扱い		
3 学期	第3章 トラクタ 乗用、歩行用トラクタの操作、点検 実習5 トラクタ等の運転、整備		・乗用トラクタ等の構造と運転操作		
			・工具の種類、使用方法		
評 価					
評価の観点		評価の趣旨			
I	知識・技術	各種農業機械の操作、点検等について理解しており、農業機械を用いた作業を安全に行うことができる。			
II	思考・判断・表現	各種農業機械を用いる際の危険や課題を発見し、効率的な農作業に寄与できるよう合理的かつ創造的に思考、判断し、他者に伝えることができる。			
III	主体的に学習に取り組む態度	各作業、運転操作等を安全に行うことができるように主体的に取り組んでいる。			
評価方法	観点Ⅰ		観点Ⅱ		年間時数
	定期テスト 実技テスト		授業時の発言、発表		予定
					70 時間
					実施
置賜農業育てる能力		②自己肯定感 ④主体性 ⑤生命 ⑥他者理解 ⑦協調性 ⑨生きる力 ⑩知識技能 ⑪地域づくり ⑫実践奉仕 ⑬社会貢献			